

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び  
 II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成  
 III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築  
 IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成  
 V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【 愛知県立南陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	706名（全校生徒）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ ） ② 行事名（ 文化祭 国際理解LT ） ③ その他（ 授業後（生徒会主催） 図書委員会 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 （ねらい）	オリンピック・パラリンピックの学びを通じて、自分自身にできることを考え、国際的な視野をもって地域社会や世界に貢献できる人材を育成する。
5 取組内容	(1) オリンピック・パラリンピック関連の展示（文化祭） 図書委員会主催でオリンピック・パラリンピックについて調べ、図書室内で展示を行う。 (2) 書籍を通じたオリンピック啓発（各教室） オリンピック関連書籍を毎週クラスに回し、オリンピック・パラリンピックに関する興味関心を高める。 (3) パラリンピック種目体験 生徒会主催で生徒向けにパラリンピック出場選手（大堂秀樹 パワーリフティング パラリンピック出場 ロンドン五輪入賞）より講話・実演・生徒体験を行う。 (4) 東京オリンピック2020の基本コンセプトやオリンピック憲章から考える、自分自身ができること（国際理解LT） 基本コンセプトやオリンピック憲章を読み、自分自身ができることは何かを考えさせ、その決意をまとめる。オリンピックを通してSDGsについても理解を深める。 (5) 各教科の授業 各教科・科目の授業内でオリンピックを題材とした授業を実践し、科目の理解度を高める。
6 主な成果	(1) 図書委員会の生徒は、各クラスへの関連本のPOPや図書だよりの特集【写真1】、文化祭での展示物の作成【写真2】を通して、オリンピック・パラリンピックに関する知識や情報について主体的にテーマを選び、整理して発信する活動ができた。



【写真1 図書だより】



【写真2 文化祭で作成した展示物】

- (2) 図書委員会でオリンピックに関連した書籍をクラスへ配架した。【写真3】週1回本を各クラスで入れ替えることで様々な情報を手にすることができるコーナーを企画することができた。また、図書委員会で作成したPOPと共に各クラスへ配架することで、図書委員の意識向上とクラスの生徒が手に取りやすい環境をつくることができた。



【写真3 各クラスに配架したオリンピック関連書籍】

- (3) パラリンピックの選手の方からの講演や実演を通して、障がいがあってもやりがいをもって生活することができ、パラリンピックが貢献していることを感じ取ることができた。【写真4】パワーリフティングの体験では、正しい姿勢や手法を学ぶことでパラリンピックやパワーリフティングへの興味関心が高めることができた。



【写真4 パラリンピック選手による講演及び実演】

- (4) オリンピックやパラリンピックについての関連文章を教育支援アプリで配信し、クイズを作成することで学びを深めさせた。

【写真5・6】オリンピックはSDGsを推進する大会であるという事を知り、SDGsとの関連性を理解することができた。



【写真5 教育支援アプリで配信したオリンピック教材】



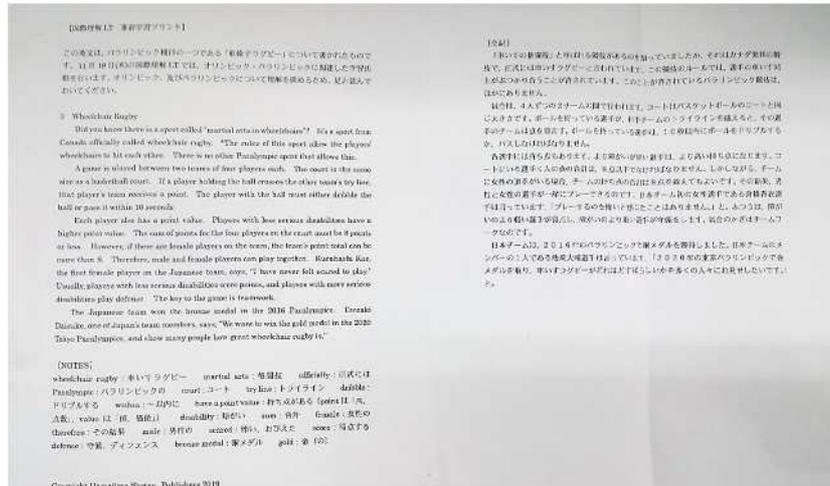
【写真6 生徒が考えたオリンピックに関するクイズを出題する様子】

また、東京オリンピックの3つのコンセプトである「全員が自己ベスト」「多様性と調和」「未来への継承」について、自分たちにはできないことはないかを考え、今後の目標や決意を見つけることができた。【写真7】



【写真7 コンセプトから自分の決意を考える様子と決意を写真に撮る様子】

(5) 国際理解 LT に向けて、事前の動機付けとしてパラリンピックをテーマとした車いすラグビーの題材を使用した英語の教材配付や、教科横断的な取組として各授業でオリンピックについての話を導入等で実施し、生徒の興味・関心高めることができた。【写真 8】



【写真 8 パラリンピックをテーマとした車いすラグビーの題材を使用した英語の教材】

7 実践において工夫した点 (事業の特色)

- (1) 名古屋市図書館と連携し、公共図書館からの必要な資料の貸し出しを受け、蔵書を補いつつ推進活動を行った。
- (2) 各クラスへオリンピック・パラリンピックの関連本の配架について、鮮度を保つよう毎週図書委員が本の入れ替えを行った。
- (3) パラリンピック選手の実演を見るだけでなく、体験をさせることでより興味・関心を高めさせた。
- (4) 教員から「教える」という一方的な学びではなく、生徒が主体的に学ぶことができるように、オリンピックに関するクイズの作成を取り入れ、学んだことを誰かに伝えることができるように工夫した。【写真 9】他にも SDGs のバッジを全員つけることで意識を高めさせることができた。【写真 10】



【写真 9 オリンピッククイズを考える様子】



【写真 10 生徒がつけたオリンピックバッジと SDGs バッジ】

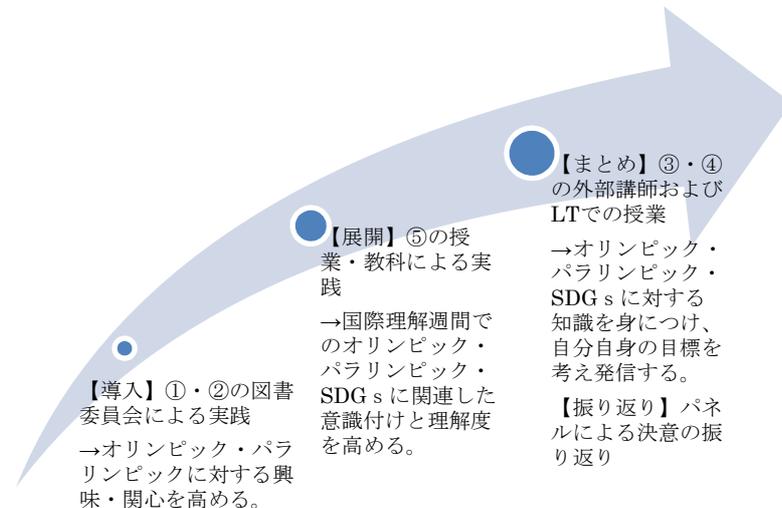
- (5) 単発的な取組にならないように他と実践と時期を重ねることで、生徒のオリンピックに関する理解度を高めさせる工夫を行った。

事後については、生徒がそれぞれ書いた決意を写真で撮影し、クラスごとにパネルにすることで振り返りを図った。【写真11】



【写真11 生徒の決意をまとめたパネル】

全体の流れを導入・展開・まとめ・振り返りの4つの段階に分け、それぞれの取組の位置付けを決めることで、効果的な実践を行うことができた。【資料1】



【資料1 南陽高校におけるオリンピック・パラリンピック教育推進事業の流れ】

8 主な課題等

- (1) あすチャレの抽選に漏れてしまったため、当初予定していた③のパラリンピック種目と異なる内容で図書だより等を発行していた。パラリンピックという大きな枠で考えれば問題はないが、より当該種目に特化して実践を行うことが出来なかったのは課題であった。
- (2) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、手洗い等をより一層徹底させる必要があった。
- (3) 事前にパワーリフティングへの予備知識を深めておけるとよかった。また、生徒の体験に割く時間が多くなり質疑応答が短くな

	<p>ってしまったので、事前に質問事項をまとめておき、それに答えてもらうという形で多くの話が聞けたらよりよかった。</p> <p>(4) 目標や決意を定めることが出来なかったり、具体性が欠けたりする生徒がいた。生徒の理解度に応じて、考える目標の提示が必要だと考えられる。</p> <p>(5) 総合学科の特性から科目の展開数が多い関係で全ての授業でオリンピックに関連した取組を行ってもらうということが難しかった。年間指導計画に盛り込むなど年度当初からの計画が必要であった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 校内放送で本と共にオリンピックの紹介をする。</li> <li>• オリンピック開催まで図書だよりの特集は継続する。</li> <li>• 未来屋書店（校外活動）での棚づくり企画でオリンピックの特集をする。</li> <li>• 実際に来年度開催に延期されたことから、パラリンピックについてさらに調べる取組や、観戦し興味をより深めることができるようにしていきたい。</li> <li>• 授業やLT、総合的な探究の時間の中で、定めた目標や決意がどの程度達成されているかを確認する時間を設け、継続的に関わり続ける。また、オリンピックやパラリンピックが実施されていく中で、新たに生じる課題や問題点があれば、改めて生徒自身にどのように取り組んでいけばよいかを考えさせる。</li> </ul>